

ふりがな みなみ ゆうこ

氏名 南 裕子

1. 学歴

1988年3月 慶応義塾大学法学部政治学科卒業
1988年9月 中国・復旦大学国際政治系留学（(財)霞山会派遣 -1989年6月）
1990年4月 慶応義塾大学大学院社会学研究科修士課程入学
1992年3月 同課程修了
1992年4月 慶応義塾大学大学院社会学研究科博士課程入学
1993年9月 中国社会科学院社会学研究所留学（-1994年8月）
1995年3月 慶応義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学
1995年4月 慶応義塾大学大学院社会学研究科研究生（-1996年3月）

2. 職歴・研究歴

1996年1月 日本学術振興会特別研究員（-1998年3月）
1998年4月（財）農村開発企画委員会研究員（-2004年3月）
2004年4月 一橋大学大学院経済学研究科助教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

中国研究入門，中国社会論，クラス中国語，経済文化C（中・露）

(b) 大学院

各国経済思潮

B. ゼミナール

学部後期（共通ゼミ），大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

クラス中国語では、正確な発音の習得を重視し、その上で初歩的な文法理解に基づいた日常会話の力をつけることを目標としている。

「中国研究入門」、「中国社会論」は、比較の視点を身につけることや学部後期の専門的学習の基礎として、社会、経済、政治等の多面的な角度から現代中国の基本的なあり方を論じると共に、特に社会構造の変動分析に焦点をあてた講義を行っている。「経済文化C」は中級履修を終えた学生を対象に、新聞雑誌等の中文記事を用いながら、中国の経済現象について社会・文化的な側面からの検討を行っている。

学部ゼミナールは共通ゼミであり、現代中国の国家・社会関係を主たるテーマとし、基本的な文献の輪読の後は、参加者が各自の関心に即してより具体的な研究テーマを設定し研究を進めるという方針をとっている。

大学院ゼミナールでは、参加者と相談の上、テキストの輪読と各自の研究報告を組み合わせた形での指導を行う

こととしている。

4. 主な研究テーマ

(1) 現代中国の農村自治と国家・社会関係

国家により提唱された村民自治制度の浸透や中国における農村自治の存立構造について、フィールド調査を基に研究を行っている。

(2) 中国における農村開発と地域組織

生活環境改善事業や農村観光の取組みを通じて、農村開発のプロセスにおける行政、村（自治組織）、農民組織、個々の農家の関係構造の把握や、地域住民の主体性の確立の問題を検討している。

5. 研究活動

A. 業績

(b) 論文(査読つき論文には*)

- * 「改革政策下の農村社会 農村経済の変動と「村干部」」 『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』第34号, 1992年, 59-66頁。
- 「中国農村の社会学的研究についての一考察 清水盛光と福武直の比較から」 日中社会学会 『日中社会学研究』第3号, 1995年6月, 16-30頁。
- * 「現代中国における国家と社会 村民委員会の創出にみられる農村掌握の仕組み」 日本村落研究学会 『村落社会研究』第3号, 1995年9月, 20-30頁。
- * 「村民委員会与中国農村社会結構変遷 "法人行動者"及其社会行為分析」 中国社会科学院社会学研究所 『社会学研究』, 1996年第3期(中文, 中国社会科学院社会学研究所助理研究員・朱又紅と共著), 32-41頁。
- 「戸籍制度改革と小城鎮建設」(財)農村開発企画委員会 『地方都市を核とした農村地域の新たな発展に関する調査研究(1)』, 1999年3月, 65-74頁。
- 「都市と農村の関連構造, 地方都市の変化」 佐々木衛・松戸武彦編著 『地域研究入門(1) 中国社会研究の理論と技法』, 1999年8月, 文化書房博文社, 149-177頁。
- * 「中国農村における「村民代表会議」の設立と村の意思決定過程」 日本村落研究学会 『村落社会研究』第11号, 1999年9月, 8-18頁。
- 「農村における基層組織の再編成と村民自治」 菱田雅晴編 『現代中国の構造変動5 社会』第6章, 2000年6月(陸麗君と共著), 東京大学出版会, 165-188頁。
- 「生態環境保全政策の体系と退耕還林政策」(財)農村開発企画委員会 『農村発展の新段階における計画手法に関する研究(2)』, 2003年3月(菅沼圭輔・津田渉と共著), 26-42頁。
- 「延安市宝塔区農村における退耕還林政策の実態 ケーススタディ」(財)農村開発企画委員会 『農村発展の新段階における計画手法に関する研究(2)』, 2003年3月(菅沼圭輔と共著), 43-51頁。
- 「大寨における農村観光開発 新しい地域づくりの模索」(財)農村開発企画委員会 『多面的機能を活かした農村振興の手法等に関する研究』, 2004年3月, 91-98頁。
- 「都市型観光農業の展開から見た慈溪市の地域づくり」(財)農村開発企画委員会 『新しい農村像構築に向けた計画的農村づくりに関する研究』, 2005年3月, 78-87頁。
- 「農村自治の存立構造と農村社会の変動 - 公共財の提供主体をめぐって - 」, 『アジア遊学 特集 中国社会構造の変容』83号, 2006年1月, 勉勵出版, 108-117頁。

(c) 翻訳

『中国の家庭・郷村・階級』(李景漢『北平郊外之郷村家庭』商務印書館,1929年,喬啓明「江寧県淳化鎮郷村社会研究」『金陵大学農林叢書』第23号,1934年の翻訳),1998年,文化書房博文社。

(d) その他

「世界の村づくり 生態環境の保全と農村開発の両立を目指して 中国延安市農村の取組み」,全国土地改良事業団体連合会『新しい村づくり』No.106,2003年3月,42-45頁。

「世界の村づくり 歴史と緑を活かした観光振興による新たな地域づくり - 中国山西省昔陽県大寨村」,全国土地改良事業団体連合会『新しい村づくり』No.114,2005年,28-31頁。

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表

「村民委員会選挙への参加と自治意識 華東地域X省での質問表調査から」中国基層自治日本会議(静岡県立大学),2002年8月31日。

「党政エリートと民衆の関係からみた県レベルにおける地域統合について - 四川省射洪県におけるアンケート調査から」国際シンポジウム「"自律化社会"のガバナンス;グラスルート中国の変容と政治的レスポンス」主催;法政大学中国基層政治研究所,『現代中国コーポラティズム研究会』,2006年12月10日(日)。

6. 学内行政

(b) 学内委員会

語学ラボラトリー(LL)運営委員会(2006年4月-)

全学共通教育専門委員会(2006年4月-)

語学研究室運営委員会(2006年4月-)

7. 学外活動

(b) 参加学会および学術活動

日本社会学会

日中社会学会 理事 2004年6月- (2007年6月に任期終了)

日本村落研究学会